

より良く生きる ―出居清太郎先生の世界― 第10回

山本博也

(1) 人の心を味わう

人のふり見てわがふり直せ、と言われます。人を見て、よい点はまねをし、悪い点は直す。しかしこれだけでは十分ではありません。

人の言動を見聞きするだけでなく、その人の心をよく味わうことが大切です。そのためには、人の心に裸になつて飛び込んでいかねばなりません。酔っぱらつて暴言を吐く人でも、その人の心を深く味わつてみると、その人を大切にしてい

げようという気持ちになれるのです。心の浅い所へ入っただけではパシヤパシヤと音ばかり大きくて、飛沫が立つばかりです。海の奥底深い所まで飛び込んでみると泳ぎやすいようなもので、人の心も奥深く入つてみると、しみじみと味わうことができます。

皆様も、どうかよく人の心を味わつて下さい。それが心の栄養になります。そして心に味がついてまいります。味のあ

る人はそれだけ人に愛されます。

(出居清太郎先生の言葉から)
ある経営者の方が、多くの従業員の中

には、手や足に刺青（いれずみ）をしている人もいる、という話をしていました。刺青をするということは、それなりの事情があつたのでしよう。これまでの人生で、ままにならないことが多く、辛く、くやしく、やるせない思いを多くしてきたのではないでしようか。

左へ行つてはダメだ、右へ行こうと思つていながら、気がついたら左の道に来てしまつていたとか、冷静になろう、落ち着こうと思つていながら、気がついたら手が出ていたとか、自分でもどうにもならないものをかかえていて、……、たいへんだつたでしようね、ごくろうさまです。それでも今、真面目に仕事をしているということは立派なことですね、……といふふうに思えば、私の心はその

人に対して開いています。そうすればその人も、心を開いて、胸の内を語ってくれるかも知れません。それによつてその人の心を味わうことができ、その人への敬と愛も生じてくるのではないでしようか。

人の心を深く味わうためには、その人が心を開いてくれなければなりません。そのためにはこちらがまず心を開く、つまりその人を見下したり、否定したりしないで、受けいれることから始まるのだらうと思います。

もしかしたら私も、左の道へ行つていたかも知れない。その人と私との違いはそんなに大きいものではないかも知れない。それを私は自然に右へ右へと導かれてきたということは何と有難いこと

だろうか。そんな私が、たまたま左へ行った人のことをとやかに言うことなどおこがましいことに思えます。

(2) 仕事とは、「事」に「仕える」

仕事をするとは、事に「仕える」こと。こんな仕事、あんな仕事というこだわりなく、報酬がどうの、待遇がこうのという不平不満なく、与えられた仕事に、ほほえみながらまい進することが誠のわ

ざです。(出居清太郎先生の言葉から)

仕事をするとは、事(こと)に「仕える」こと、とありますが、これは、仕事の定義をしているわけではありません。いわゆる仕事をはじめ、あらゆる事を行うに当たっては、その事に「仕える」ように、その事に当たりなさいということだと思います。

「仕える」という言葉は、最近あまり耳にしなくなりましたが、たとえば秘書課員として3代の知事さんにお仕えしたとか、内弟子として丸5年師匠にお仕えしたとかというように使われる言葉です。つまり「仕える」とは、敬愛する上司や師のことを第一に考え、自分の都合を抜きにして、無条件にその人のため



カット 大西 恵

に尽くすということでしょう。

このように人に対して仕えるのと同じように、事に対しても仕えるようにしなさいと教えられていると思います。つまり事に対して、割に合わないとか、どうでもいいこととか、あれこれ難くせをつけずに、真面目に取り組み、最善の努力をするということです。

敬愛する気持ちで、仕える気持ちで事にあたることができれば、見事な、立派なふるまいができるに違いありません。それはいずれ実りへと、幸せへとつながるでしょう。

事には、いわゆる仕事ばかりでなく、家事も、ボランティア活動も、またそれらの中の一つ一つの業務（電話をかける、書類を作る、物を運ぶ、…等々）もすべて

て含まれるでしょう。

事にはまた、事柄や状況なども含まれるでしょう。病気になった、事故に遭った、文句を言われた、人が思い通りに動いてくれない、バスに乗り遅れた…等々、私たちは毎日毎日、いろんな事に向き合い、それに対応しています。

それらすべての事に対して、仕える気持ちで、謙虚に、丁寧に対応したいものです。環境のせいにしたり、誰かをうらんだり、なげやりになったりしないで。

困難や苦難に対しても、忌み嫌うのではなく、神からの頂き物と受けとり、明るく、ほほえみながら前進するところに光明があるのではないでしょうか。

発行所 〒170-0011 東京都豊島区池袋本町3-11-1

修養団捧誠会 TEL 03-3971-1493